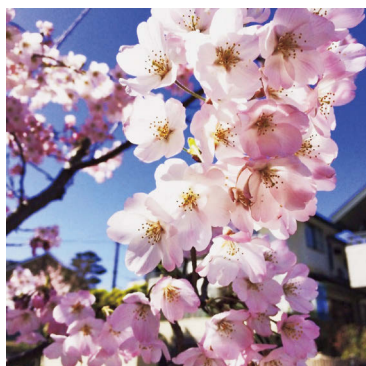


編集後記

編集後記を書いている本日、東京はかなりの勢いで雪が舞っております。昨日は今年の最高気温を記録しているので、その目まぐるしい寒暖差が身体に応えます。今年の桜は誰にも見てもらえず、また雪にさらされてまさに哀れでなりません。ここ2回の本誌の編集後記を読みますと、コロナの話題に触れています。はじめはコロナの発症の話題、そして次に研究会等の中止、本号発刊時に至っては、ウイルスはさらに猛威をふるい、社会への影響も甚大で、オリンピック延期、多くの大学で新学期は5月からという事態にまで発展しました。著名人も感染し、次は自分ではないかという恐怖、そして感染したら周りにどれだけの迷惑をかけるか恐ろしいものです。もう先生方もコロナはたくさん、コロナ鬱、自粛疲れがそろそろピークに達しておられるのではないのでしょうか。



さて、本号の特集は緑内障です。私が研修医のころには眼圧を測定し、乳頭を観察し、視野を確認し、ときに旧式のトノメータで震える手を抑えながら計測を行い、診断がつけばピロカルピン点眼治療を行っておりました。眼科では白内障・屈折矯正手術、網膜硝子体手術とその進歩は目を見張るものがありますが、緑内障分野の進歩も素晴らしいものがあります。それは疫学調査に始まり、OCTを中心とした診断技術の進歩、そして治療の選択肢の多様さにあります。私のような専門外のものには、聞いたことがある程度のものもあり、本号を読み、とても勉強になりました。

さて、本項を書いている中、外の雪が積もりはじめています。明日の仕事に行けるか不安を覚えますが、この雪と同様にコロナも溶けてなくなっしてほしいものです。(石川 均・記)



編集：富田剛司・坪田一男・後藤 浩・飯田知弘・雑賀司珠也・門之園一明・石川 均
編集顧問：所 敬・小口芳久・臼井正彦・澤 充・谷原秀信・岸 章治・三村 治・飯島裕幸

「眼 科」 第62巻 第4号 4月号

2020年4月5日発行（毎月1回5日発行）

定価（本体2,800円＋税）

年間講読料金 定価（本体42,100円＋税）

〔年間13冊（臨時増刊号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03 (3811) 7165 [編集室直通]

Tel 03 (3811) 7184 [営業部直通]

FAX 03 (3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 横山印刷株式会社 Tel 03 (3622) 6161

広告申込先 福田商店 Tel 06 (6941) 5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、e-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。